

布施薬剤師会報告

日時・場所 2009年6月20日 14:00~17:00 近畿大学薬学部 16号館5階 第1講義室

講師 近畿大学 経営学部 准教授 安酸 建二

勉強会テーマ — 経営活動と財務諸表 —
経営活動と財務諸表のつながりを理解する。

参加者数 45名

講演要旨

多くの場合、一般の人々は「会社が儲かる」という状態を直感的・経験的に理解されている。しかし、改めて『会社が儲かっている』というのはどう言う状態ですか?と質問されると、ほとんどの人は困ってしまう。

そこで、今回の勉強会では、企業経営を単純化したゲームを行い、会計の仕組みが「会社が儲かる」という状態をどのように認識するのかを確認した。具体的には、貸借対照表と損益計算書が、どのような経営情報を含んでいるのかについて理解を深めた。

次のような素朴な疑問を理解することから勉強会を進めた。

- なぜ利益を計算する必要があるのか。
- 誰が利益に関する情報を必要としているのか。
- そもそも利益とは何か。
- なぜ利益を追求する主体である企業が利益計算の書類ではない貸借対照表を作成するのか。
- 誰が貸借対照表を必要としているのか。
- 収益・費用とは何か。
- 資産・負債・純資産(株主資本)とは何か。

講演内容

会計や財務に関する説明を受けることにより、基本的な知識の習得をすることができた。具体的には、「どうやって計算したり処理したりするのか“how”」ではなく、「なぜそう計算したり処理したりするのか“why”」を理解することができた。これにより世間に多く出回る「どうやって・・・“how”」を解説する本の細かな知識を理解する基礎を養う事が出来たと考えられる。

また、会計を通じて把握される利益や会社の財政状態は、我々の直感や日常感覚と一致しており、そうした情報の必要性も直感的に理解できているので、本勉強会では会計の細かな話は一切取り扱わず、今日の会計を支えている重要な柱だけを取り出して講義していただいたので大変理解しやすかった。

さらに、ゲームを利用して、貸借対照表と損益計算書の関係を整理したことにより、貸借対照表とはどのようなものであるのかということを理解することができた。特に、なぜ利益計算の書類ではない貸借対照表が必要なのかを理解することができた。貸借対照表を中心に財務諸表を分析する方法についても理解することができた。これを通じて、参加者は、「いくら資金を元にいくら利益を上げているのか」という経営にとって最も重要な情報(「資本効率」とか「資金効率」と呼ばれる)に対する意識を高めることができたと考えられる。